私のヒーロー、商店街に

アニメ・マンガの聖地、コスプレーヤーに優しい街・立川としてファンが集まる街に――。今年も11月3日に立川市駅北口一帯で、アニメ&コスプレイベント「立川あにきゃん2016」が開催された。立川モノレール下のメイン会場内は、先着順のショーの整理券等を求めて早朝から長蛇の列に。メイン会場を起点としての周辺商店街の店ラリーや参加店の販促企画、またエリア各所にはコスプレ来場者向け撮影スポットも設営。お気に入りのヒロインに扮したアニメファンをはじめ、そんなファンらが演出する街の賑わいを楽しみに訪れる来街者などが行きかった。

人気アニメで広域集客

立川あにきゃん　コスプレや店ラリー

▶あこがれのキャラクターに扮してラリーで店巡り
▲ステージ会場にはコスプレファンも多数駆け付ける

同イベントは、JR立川駅北口周辺の柳通り商店会、立川北口駅前大通り商店会、あけぼの商店街振興組合の3商店街の若手を中心とした「立川あにきゃん実行委員会」（委員長＝宮崎幸治　立川北口駅前大通り商店会会長）が、立川市振連および立川商工会議所の後援、立川観光協会他の協力を得て実施している事業。5年目を迎えて認知度も向上し、今年も約1万人超の集客となった。

メイン会場内では、地元商店街所属のアニメ関連店舗などがブースを連ねた「あにきゃん商店街」を設営。また特設のキャンプファイヤーステージでは、「サクラ大戦」「ろんぐらいだぁす！」「パンでPeace！」など、各種人気アニメの声優等が登場してのトークショー、コスプレショーなども実施され、集まったファンたちが熱い声援を送った。このほか人気アニメを車体にあしらった「痛車」展示、アニメとコラボしての「アニメイトカフェ」、またお気に入りのコスプレでの来場者向けには各種特典企画も提供している。

こうしたメイン会場の賑わいを、街全体へと回遊させる仕掛けも凝らした。駅から会場へと伸びる北口周辺の街路灯は、人気アニメ「サクラ大戦」の各キャラクターをあしらったPRフラッグで演出。メイン会場をスタート地点に、8店舗を巡って同アニメのキャラクターのスタンプを集める「まちめぐりスタンプラリー」も展開され、スタンプ5つ以上で同アニメのクリアフォルダがもらえるとあって、約550枚用意したスタンプ台紙が早々になくなる人気ぶりとなった。

またメイン会場では、商店街内20店舗で使えるクーポン付きチラシも配布され、「立川あにきゃんイベントの写真の提示で30%引き」「クーポン提示で生ビール1杯プレゼント」など各店それぞれにPR。これとは別に、コスプレ来場者限定の特典を提供する15店舗の一覧マップも配布されて、「食券500円利用可能」「タピオカドリンクでタピオカ増量」など特典を競い合っている。

「アニメを前面に出した企画を打ち出すことで、より広域かつ若い客層が立川の街・店を訪れるきっかけづくりにつながった」と宮崎実行委員長。10月の「立川街バル」企画では、店頭提供する特製コースターや告知フラッグにアニメ「ガッチャマン クラウズ インサイト」を採用しており、そのフラッグを再利用したリサイクルバッグをあにきゃん会場でも販売。地道に継続するなかで、連携先であるアニメ会社、そして他の商店街イベントとの相乗効果も広がりつつあるようだ。

【写真上】エドレンジャーの登場に、お面をかぶった子どもたち（写真下）から熱い声援

【写真右】エドレンジャーショーを2カ所まわるとお面がもらえるカードが子どもたちのブームに

打倒！シャッター軍団

江戸川区商連エドレンジャー　お面で園児らが大声援

商店街を衰退させる計画を遂行する「蒼の不景鬼（ふけいき）将軍」率いる「シャッター軍団」。彼らから江戸川区商店街を守ろうと、商店街で働く若者が立ち上がった――。そんなストーリー仕立てで、江戸川区商店街連合会（松本勝義会長）が3年前に誕生させたのが『「商売繁盛」エドレンジャー』だ。エドレッド、エドグリーン、エドピンク、エドゴールドなどのキャラクターが、地元子供たちの絶大な人気を集めている。

今月も12月11日には、午前11時に瑞江駅周辺3商店街のイベントで駅前会場へ、続いて午後3時に小島町二丁目団地商店会の抽選会場へ〝出動〟予定。ステージショーに続いて撮影会、握手会なども実施して、子育て世代の商店街集客に効果を上げている。

さらに今年5月からは、ショー2カ所を巡って2つのスタンプをもらうと、エドレンジャーの紙製のお面（＝マスク）がもらえるラリーもスタート（カード画像参照）。各会場ではマスクを被った子供たちが盛んに声援を送る姿や、4種のお面すべてを集めようと商店街巡りをする親子連れも。区商連ホームページ「エドレンジャーの出動予定」コーナーへのアクセスも向上している。

同キャラクターは区商連の企画で区が制作し、著作権は区商連保有で商標登録済み。演出面では、地元の俳優育成や音楽関連の専門学校と連携することでプロ意識の高い学生の技能を活用でき、学生たちにとっても実践の場が広がるなど相互にメリットを得ている。

販促面では、区商連とエドレンジャーをあしらったイベント告知用のカラーチラシ・フォーマットを制作しており、各商店街が地元幼稚園や保育園に配布してイベント告知に効果を上げている。より親しみを持ってもらおうとゆるキャラ風のキャラクター絵も制作したほか、各キャラクターそれぞれの缶バッチを1個200円で販売中。今後は、個店のエドレンジャー関連商品開発も後押ししていく方針だ。

街、店を舞台に演劇

向島橘銀座（協）　地元劇団が初企画

「ケンジさんのバタークリームは最高！」――。そんな呼びかけで店頭に登場した店主からのヒントを頼りに〝観劇客〟らは、買い物を楽しんだ後、次のお店へ。即席〝劇場〟となった次の喫茶店内では、劇団員によるパフォーマンスが展開され、そして謎解きヒントとともに、次の舞台となるお店へと誘導。こうして「私を探して…」との謎の手紙を受け取った〝観劇者〟らは、劇団員、店主、そして時には自ら演出に参加しつつ、約1時間半の商店街内回遊型謎解きミステリー演劇『11月のレインリリー』（作：片山耀将×奥山静香、演出：緑川憲仁）を楽しんだ。

今回の〝商店街劇場化プロジェクト〟は、11月12日・13日に墨田区の向島橘銀座商店街協同組合（寺尾肇理事長）がシアターキューブリックの企画協力を得て実施したイベント『キラキラ橘ドラ街ック商店街！』の一環。シアターキューブリックは墨田区を中心に活動する劇団で、商店街応援アイドル「帰ってきたキューピッドガールズ」や、商店街主催「つまみぐいウォーク」などでも演出・PR協力している。

初企画となった〝商店街劇場化プロジェクト〟のねらいは、作品世界および〝劇場〟歩きを通じて街・店に親しみを持ってもらうことで、記憶に残りかつ「また来たくなる」商店街として印象付けようというもの。今回の『11月のレインリリー』では地元のみならず遠方からも〝観劇客〟を迎えて、3公演を実施。このほかイベント期間中には、地元中高生が盛り上げるプチ演劇フェスティバル、商店街の食べ歩きイベント「つまみぐいウォーク」なども展開されて、街・店をたくさんの人が行き交った。

各店内での公演を観たり（上写真、ゲネプロにて）店主と交流したりしながらヒントを探して街巡り

東京商店街グランプリ受賞事業

概要、講評、受賞者コメント（1面に関連記事）

グランプリ受賞発表に吉村会長がガッツポーズ

商店街の部

【グランプリ】

▼街の力を育て合い事業（和田商店会＝杉並区）

若い新住民を対象に、個人商店を利用して店主が独自のアイデアを打ち出し商店の魅力を紹介する「ミニ体験講座」や、商店街を応援する子育てグループ『わだっち』が企画運営する「商店街クイズラリー」を実施。新規顧客の掘り起こしと共に、高齢化した店主が若い消費者ニーズを取り入れた独自アイデアを試すことが出来る仕組みとなっている。

講評では、子育て世代を巻き込んだユニークな企画で、商店主は消費者の視点を実感でき、参加する子育て世代は地域との繋がりを感じられるなど、日常的な関係性が生まれていると指摘。地域の若いママ層が地元店に訪れるきっかけになり、さらにその子供たちも商店街の応援団になるなど商店街活性化につながっていると高く評価された。

これを受けて吉村治樹会長は、店主の高齢化などの課題を挙げつつも、60店舗ほどと小さな商店街でも地道な活動を続けることで、グランプリを取れたことは大きな励みとなるとした。

【準グランプリ】

▼ぶんザニア（ぶんじマルシェ実行委員会＝東栄会、国分寺北口西通り商店会、本町四丁目商店会、国分寺北口駅前商店会、八日会商店会＝国分寺市）

「見たい！知りたい！やってみたい！が商店街にいっぱい！」をコンセプトに、地域の子供を対象に仕事から消費活動に至る循環経済を体験学習できる社会貢献型イベントプログラムとして「ぶんザニア」を実施した。

講評では、駅再開発事業が行われているなか、まちなかの魅力発信に向けて5商店会の若手が連携し、身近な商店街としてPRを図っていると評価された。

【優秀賞】

▼花みずき街角誰でもアーティスト～メインテーマ　おのくんを探せ～（深川資料館通り商店街協同組合＝江東区）

「おのくん」とは、東日本大震災で被災した宮城県東松島市の女性グループによる復興支援を願って手作りされたソックモンキー。商店街の各店舗に飾られた「おのくん」を探し出すイベント。参加各店舗で自由に「おのくん」を配置し、来街者に探してもらうことで、商店街を隅々まで知ってもらう機会を創出。同時に被災地を応援する下町商店街としてのイメージアップや知名度向上にも繋がった。

講評では、個店を知ってもらうきっかけづくりになる点や、常連客だけでなく商圏外からも集客している点、さらに復興支援にも寄与している点などが評価された。

▼世田谷線つまみぐいウォーキング（世田谷区商店街振興組合連合会＝世田谷区）

東急世田谷線沿線10駅の駅前にある11商店街が参加し、来街者は10枚つづりのクーポン券を持って、各商店街の参加店が用意した「つまみぐい品」を食べ歩きしながら、まち歩きを楽しむイベント。合わせてスタンプラリーも実施して、スタンプを集めた参加者に記念品、または抽選で景品を提供。まち歩きをして世田谷の街と店魅力を感じてもらうという、まちなか観光としての役割も果たしている。

講評では、地元沿線の地域資源をうまく取り込むことで、まちなかを回遊しながら観光できる点が評価された。

【奨励賞】

▼動画映画で活性化！川島商店街ムービープロジェクト（川島商店街振興組合＝中野区）

フィルムコミッション事業や、子どもたちが初めて商店街の店舗におつかいをする様子を撮影する「はじめてのおつかい」を商店街で行っている。

栗山氏は今後も連携を力にかえていきたいとの決意を表明

地元商店街のポイントとなっていることにより街全体の一体感を創出し、代々木の街の魅力を来街者に伝える。

講評では、地域のさまざまなセクターが連携することで、多様な魅力を発信している点が評価された。

個人の部

▼栗山和久氏（世田谷区商店街振興組合連合会青年部長、烏山駅前通り商店街振興組合副理事長及び青年部長）

これを受けて栗山氏は、今後も商店街単独で事業実施をするだけではなく、こうした市民団体や異業団体とも連携することで、地域振興への大きな力にしたいとした。

さらに若者の協力を得て、ローカルヒーローの商店街ショートムービーを製作し、安価でできる映画祭事業も行った。

講評では、「映画」を軸とした地道な活動が軌道に乗っている点や、費用をあまり必要とせず成立していることから、他商店街のお手本ともなる点が評価された。

▼栗山和久氏（世田谷区商店街振興組合連合会青年部長、烏山駅前通り商店街振興組合副理事長及び青年部長）

地元商店街のポイントカード事業では、地元ボランティア団体運営の「よろず相談所」でもポイント提供。街バル企画では周辺5商店街とも連携している。さらに区レベルでは、毎年10月の「せたがた産業フェスタ」で実行委員長を務め、農業、工業、法人会など区内の異業種の産業団体青年層とも連携してフェスタを継続的に実施している。

講評では、地元ボランティア団体をはじめ周辺商店街、さらに異業種の産業団体と連携のカナメとなっていると高く評価された。

これを受けて栗山氏は、今後も商店街単独で事業実施をするだけではなく、こうした市民団体や異業団体とも連携することで、地域振興への大きな力にしたいとした。

専門家が**商店街の活性化**や**お店の利益向上・お客様満足度向上**をお手伝いします！

こんなお悩みありませんか？？？

【商店街の皆さま】

- 商店街でのイベントがマンネリ化している
- 商店街での勉強会を開催したい

【小売店・飲食店・サービス業　店主の皆さま】

- 売り上げが伸び悩んでいるが、何をしたら良いか分からない
- 商品やメニュー、サービスの魅力を上げたい
- お店の運営方法、ＰＲ方法をもっと知りたい

商店街パワーアップ作戦
商店主スキルアップ事業

ご相談の内容に応じて、各分野の専門家が実践的にアドバイスします！

しかも！**費用は無料**です！

■　**お申込み・お問合わせはこちらまで**

（公財）東京都中小企業振興公社 経営戦略課
若手商人育成事業担当
TEL：03-5822-7237　／　FAX：03-5822-7235

若手商人育成事業 Facebook ページ：
https://www.facebook.com/wakateshonin

E-mail：shonin@tokyo-kosha.or.jp

公益財団法人 東京都中小企業振興公社　東京都産業労働局